

古稀祝宴（松口月城）

欣懐 覚えず 酒杯の 飛ぶを

盤に 佳肴あり 妓は 囲みを作す

今夕の 喜筵 酔いを 辞する 勿れ

人生 七十 古来 稀なり

解説 杜甫の曲江の詩にある「人生七十古来稀」の語句に基づく。
当時は七十歳以上生きる人が少なかつた。

語釈 ※古稀 七十歳の年祝いをいう。 ※欣懐 よろこばしく思うこと。 また、その気持ち。 ※覚 自然にそう思われる。 感じられる。 ※酒杯 盃。 ※盤 食物を盛る平たい円形の器。 皿。 鉢。 ※佳肴 上等の酒のさかな。 おいしい料理。 ※妓 酒席で、音曲、歌舞などをもって客に接待する女性。 ※今夕 今晚。 こよい。 ※喜筵 祝宴 ※人生七十古来稀 杜甫の曲江の詩にある「人生七十古来稀」の語句に基づく。

通釈 古稀祝に多くの人が駆け付け、酒杯が飛ぶように巡る。 食膳には美味しい料理が並び、応接する女性が持て成してくれる。 今晩の祝宴は美酒を断る勿れ。 人生七十、古来稀なのだから。